

モデル事業名	いすみ市“実践型まちづくり塾”創生プロジェクト ～新たな縁を礎とする“フォーラム型まちづくり支援隊”のしくみづくりに向けて～
活動団体名	いすみ市まちづくり推進協議会
ホームページ	
所属/ 担当者名	事務局：いすみ市役所 総務部地域プロモーション室 担当者：尾形和宏
連絡先	地域プロモーション室 電話番号：0470-62-1332 Eメールアドレス：uji@city.isumi.lg.jp
活動地域	千葉県いすみ市

● 活動地域の概要

千葉県の南東部に位置するいすみ市は、3町合併により平成17年12月に誕生した新市である。現状では、人口減少と少子高齢化の影響により、耕作放棄地や空き家の増加、里山の荒廃やコミュニティの崩壊が進みつつあり、各産業も衰退の一途をたどっている。

○いすみ市（旧3町合計）の人口（住民基本台帳登録人口）

昭和63年度末 44,574人

平成10年度末 44,701人

平成18年度末 43,201人

と、この18年間で1,373人減少している。

○年齢別の割合

【15歳未満】

昭和63年度末 17.2%

平成18年度末 10.8%

と6.4ポイントと低下している。

【65歳以上】

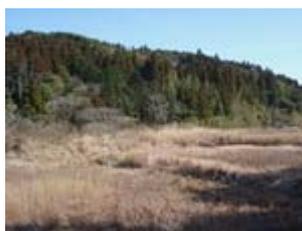
昭和63年度末 17.8%

平成18年度末 29.4%

と11.6ポイント上昇し、市民の約3人に1人が高齢者となっている。



【位置図】



【土地所有者の高齢化によって荒廃した谷津田】



【若い世代が都市部へ転出してしまった旧家】

● 活動地域の課題

都心から約100kmと気軽に訪れることができる距離にあるものの、集客の仕組みが確立されていないことから観光客には素通りされている。その一方で、温暖な気候や里海・里山の自然、豊富な農産物や魚介類、特徴ある伝統文化やサーフポイントといった地域資源に恵まれていることから、移住・定住先として注目されつつあり、地域の一体感の醸成と併せて、新たなコミュニティ再生を礎とする地域づくりが急務となっている。

● 活動の内容

(全体)

【活動1】

- ・市内で活動する数多くの市民活動団体とのワークショップを開催した。今後の方向性とニーズ等を把握した。

【活動2】

- ・地域事情に精通した地域づくりの専門家をコーディネーターとするまちづくり塾を開催した。
- ・開催を通して、いすみのまちづくりの作法や行動学を構築するための研究を深めた。

【活動3】

- ・ワークショップやまちづくり塾への参加を通じて広がった活動の輪を、緩やかなまちづくりの連携隊である「まちづくりフォーラム」創生へ向けて展開を図った。

【活動4】

- ・協議会と行政の協働関係とコーディネート機能に関する相互支援により、いすみ市ならではの体験プログラムの確立に向けて、地域の団体間の連携関係の構築を目指し、市民の協力や市内で展開される農作業体験などを活かした「いすみツーリズム」を実施した。蓄積・集積した知恵・知識を活かした実証実験を実施した。

(直近1年間の進捗など)

- ・「まちづくりフォーラム」へ参加した団体の構成メンバーへ感想や意見などを伺い、意識調査を行っている。
- ・「まちづくりフォーラム」を開催し、フォーラムの目的やあり方、推進体制、今後の活動内容などについて、参加者で話し合っている。
- ・引き続き、移住希望者を対象とする「いすみツーリズム」を実施し、又地域の田んぼでの農作業体験を活かした交流事業など様々なテーマによる体験プログラムを実施している。

● 活動の成果

・全体

(活動の成果、地域内での反響・効果及び周辺への波及効果等について記入)

- ・協働のまちづくりに関する団体間のワークショップやまちづくり塾への参加により、活動分野・活動地域の異なる団体やその構成メンバーとの出会いの場となり、いろいろな考えや共感できる方向性など、目的や立場の異なる団体間の相互理解が深まった。参加した団体や構成メンバーからも非常に良い評価を得た。

・直近1年間の成果など

(活動の状況、地域内での反響・効果及び周辺への波及効果等について記入)

【活動1および活動2】より

- ・行政は、市民活動団体等のまちづくり活動に対して広報や資金面を支援するだけでなく、対等で自立したまちづくりのパートナーとして育成していくとともに、目的や立場の違いを認め合ったうえで役割を明確にし、共通の目標を設けながら継続的な交流・連携体制を構築していく必要がある。そのため、市民の視点を中心に市民協働のまちづくり手法等を学び、今後市民との協働事業へ取り組むきっかけとするため、市民活動団体も交えた行政職員向けの講座を開催している。



市民協働スキルアップ講座 (市職員向け)

【活動3】より

- ・平成21年度「新たな公」の事業実施により出会った団体による討議が、平成22年度においても実施されている。今後活動していく上で共有すべき「まちづくりフォーラム」の目的や進むべきまちづくりの方向性などを話し合い、継続的な交流と連携関係を構築しながら市民協働のまちづくりを研究していくため、構成メンバーで事務局を作ることとなり、現在、運営方法やルールなどを話し合っている。



まちづくりフォーラムでの話し合いの様子

【活動3】より

- ・この「まちづくりフォーラム」で出会った団体やメンバー同士が、それぞれの活動目的や将来ビジョンに共感しあい、市内にある谷津田の再生と活用を目指した活動を協働で実施している。



多様な団体の協働による里山再生活動の様子

【活動2および活動4】より

- ・いすみ市の地域資源などを活用した「いすみツーリズム」が多くの協力者や市民活動団体との連携も広がり、定住促進に関心のある旅行会社等の支援を得て実施されている。こうした体験プログラムは、「いすみ市まちづくり推進協議会」で中心的な役割を担ったメンバーにより設立されたNPO法人により企画・運営が行われており、直近では都市と農山漁村の交流を推進する組織が募集する商品コンテストに応募し好評を博した。



いすみツーリズムでのヨガ体験の様子

● 今後の課題及び展望

・課題（活動を通して発見された課題等を記入）

- ・活動する地域への貢献など、身近な生活域での共通の課題に取り組むにも、地縁組織との信頼関係や連携のきっかけをどのようにつくっていくか。
- ・今後、地域の課題の解決に向けた事業創出の場面で、各分野で活動している団体がどのようにしたらそれぞれの活動領域を超えたところで事業参加できるのか。参加したいと思える魅力的な事業の創出がカギである。

・展望（今後の取組みや検討について記入）

- ・民間や行政等の多様な主体が、柔軟かつ多様な枠組みで行っていかうとするまちづくり施策の目的・目標や方向性を共有し、実行する事業の内容・計画等について、とことん話し合い、提案・提言していくような場（プラットフォーム）の構築に向けた仕組み作りに取り組んでいく。

● その他（自由記述）

- ・本協議会は、広く行政や関係機関、専門家と連携しながら、自然風土や地域文化など、いすみ市の有する地域資源を活かした魅力ある質の高いまちづくりを推進し、地域の活性化を図ることを目的に設立し活動してきた。これまで、合併市であることによる一体感の醸成や元気ないすみ市づくりのため、まちづくりにおけるモデル事業や話し合いを通じて、仲間作りと協働のまちづくりの精神を広めようと活動してきた。今後は、このまちづくりプラットフォームの構築とともに、協議会活動を発展的に継続していかうと考えている。
- ・これからも、参加する団体等と対等な立場であるまちづくりパートナーとして、本協議会活動から設立されたNPO法人等で、地域活性化に向けた活動と各団体等の中間支援の役割を担っていかうと考えている。